

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 11月5日

【評価実施概要】

事業所番号	1070900160
法人名	医療法人 育生会
事業所名	グループホームフォーシーズン
所在地	藤岡市篠塚102 (電 話) 0274-50-1333

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年10月21日

【情報提供票より】(平成21年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年7月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤	11人, 非常勤 8人, 常勤換算 15.87人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	寝具代100円/日
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日1,500円		

(4) 利用者の概要(8月31日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	11 名	要介護4	8 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.5 歳	最低	59 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	篠塚病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、母体病院の一番奥にあり、表からは想像もつかない程明るくのんびりとした田畑の風景が南面に広がっている。法人の母体となっている病院や介護老人保健施設、そこに所属する医師や理学療法士・作業療法士・言語療法士・音楽療法士・看護師・栄養士・認知症ケア専門士・介護士等との連携を背景に、音楽プログラムの実施や効果的なリハビリテーション、また充実したターミナルケアの実践など専門的なサービス、また理念に掲げる「安心した日常生活」の支援が実践されている。日常生活においても、入居者の意志や希望を尊重できるよう、穏やかな態度で対応する職員の様子がうかがえる。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の「運営推進会議を活かした取り組み」については、家族代表メンバーの交替はあったが、構成員数は変わっていない。「職員を育てる取り組み」については、外部研修内容をミーティングの時に伝達報告して、報告書を作成し誰もが閲覧できるようにしている。「食事を楽しむことのできる支援」については、お茶やおやつは入居者と一緒に味わっているが、食事は介助や見守りをし一緒に食べていない。「鍵をかけないケアの実践」については、職員が一番多い時間は見守りを行い鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、ユニット毎に職員で話し合い作成している。また、外部評価の際に提示された取り組みを期待したい事項については、事後に全職員に報告されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>概ね2ヶ月ごとに開催している。会議では、事業内容や入居者の生活状況などを報告し話し合うとともに、職員の研修報告や認知症についての学習会なども行っている。会議・学習会内容は、各ユニットの職員が出席しているので、各ユニットに伝達されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見や要望を運営に反映するために、玄関に苦情箱を設置している。また、毎月の利用料を持参した際や面会時に、意見や苦情などを聞くように努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>併設病院・施設の敷地内にあるため近隣民家はないが、近隣の高校の文化祭に招待され見学に行ったり、高校生が作った草花を買ったりしている。近隣保育園の夏祭りに出かけたり、法人クリスマス会に保育園の子供たちに来ていただいたり交流をしている。事業所でのすいか割りなど地域の子供たちも参加し、日常生活の中で地域との連携に努めている</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をもとに、それを具体化した事業所独自の理念「安心した日常生活を送る支援・心のケアを大切にする支援・レクリエーションを通してのケアの向上」を掲げ、その実現に向けて研鑽がなされている。	○	地域密着型サービスの意義を管理者及び全職員で確認し、あわせて既に実施されている地域との交流を勘案し、地域密着型サービスとしての理念の明文化が期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員に理念の書かれている携帯カードを渡し、理念の共有ができるようにしている。また、朝のミーティングで理念の実現について話し合い、外出行事やレクリエーションの実施など理念の具現化を通じてケアの向上に努めている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設病院・施設の敷地内にあるため近隣民家はないが、近隣の高校の文化祭に招待され見学に行ったり、高校生の作った草花を買ったりしている。また、近隣保育園の夏祭りに出掛けたり、法人クリスマス会に保育園の子供たちに来ていただいたり交流をしている。事業所でのすいか割りなど地域の子供たちも参加し、日常生活の中で地域との連携に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、ユニット毎に職員で話し合い作成している。前回評価課題について全職員に報告された後、「職員を育てる取り組み」については、外部研修内容をミーティングの時に伝達報告する他、報告書を作成し誰もが閲覧できるようにしている。また、「鍵をかけないケアの実践」では、職員配置の状況に応じて鍵をかけずに見守りにて対応するケアに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月ごとに開催している。会議では、事業内容や入居者の生活状況などを報告し話し合うとともに、職員の研修報告や認知症についての学習会なども行っている。会議・学習会内容は、各ユニットの職員が出席しているため、各ユニットに伝達されている。	○	3ユニットであるがゆえに、各ユニットから家族代表の出席、また地域住民のパイプ役とし区長・副区長・民生委員などの出席を実現することが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	藤岡市のネットワークとなっている藤岡市共催のリハビリ専門委員会が月に1回開催され、ホームからも職員が参加している。市町村とともに高齢者福祉サービスの充実のため、地域のネットワーク作りに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	頻繁に来所する家族とは面会時に、また遠方でも毎月の利用料を持参していただく際に、健康状態や日常生活状況などを報告している。ホームで、金銭管理は行っていない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望を運営に反映するために、玄関に苦情箱を設置している。また、毎月の利用料を持参した際や面会時に、意見や苦情などを聞くように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はなく、自己都合により職員の交代があった場合も、ユニットの特性を考慮し、入居者へのダメージを必要最小限に留めるよう努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修は月に4回あり、職員は就業中交替で研修に参加している。外部研修は、職員の希望を取り入れ参加している。内部研修、外部研修ともに、出席者は研修報告書を作成し、職員が資料を閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの利用にあたっては、本人や家族に事業所を見学していただき、希望者には半日の体験入居をして頂き安心してサービスを利用できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活において、入居者に箸の置き方、かぼちゃの種の食べ方などを教えてもらったり、うさぎやねこの飼育・洗濯物干しや洗濯物たたみ・おしぼりづくり・手芸や作品作りを共に行うなど、職員と入居者が共に学び支えあう関係づくりに取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩や入浴の希望など、本人との対話から希望を把握し、それらを日常生活の支援に活かしている。本人からの希望の把握が困難な場合も、それまでの生活歴を考慮し、レクリエーションなどの多彩なプログラムを提供するなど様々なきっかけ作りに努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスや毎日の引継ぎ、また日常的な職員間の情報交換から、入居者に今必要なケアを計画作成者が取りまとめている。また、家族からは、面会時に意見や希望を聞いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しを3ヶ月ごとに行っている。また、骨折など体調に変化が生じた時は、その都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の健康状態により家族の希望があれば、家族も同室に泊まることできる。また、家族との連携のもと、帰省や受診時の送迎、歯科などのかかりつけ医への付き添いなどを、職員と家族が協力し柔軟な対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は、併設病院が協力医療機関として対応している。耳鼻科・歯科などは、入居前のかかりつけ医の診療を受けている。受診に職員が付き添いをおこなった際には、家族に電話にて受診内容を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期ケア対応指針の同意書を作成している。入居時に家族に説明を行い、家族の希望があればターミナルケアに主治医と訪問看護師と職員とで連携し取り組んでいる。繰り返しの話し合いの下、家族を含め全員で方針の共有をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねないように、態度や言葉かけに注意している。また、記録物については、カーテンで見えないよう保管と取り扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は、体調が良ければ毎日でも入ることができる。毎日散歩をしたり、うさぎの世話をしたり、洗濯物を干したり、字を書いたり、ぬりえをしたりなど1人ひとりの思いや気持ちを大切に支援に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には弁当を持って戸外で入居者と職員とが共に楽しく食事ができるような工夫をしている。日常的な食事においては、入居者が出来る範囲で準備や片付けを職員とともに行っている。食事中、職員は自立摂取が困難な方を介助しており、入居者と同じ物を一緒に食べていない。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の体調に問題がない場合は、本人の希望に応じて入浴が可能である。体調が良くない場合には、清拭などで対応し、入浴を拒否する人には、時間を置きながら声かけなどで対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭への散歩や洗濯物干し・洗濯物たたみ・おしぼり作り・うさぎやネコの飼育など役割を担い、張り合いのある日常生活が送れるよう支援している。また、生け花やエレクトーンの生演奏、花見をしたりバラ園への外出支援など、楽しみごとや気晴らしの機会の提供に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調や気候を考慮したうえで、散歩を楽しんだり、桜の花見や紅葉狩りなど外出支援を心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけることの弊害について理解しており、可能な範囲で鍵をかけないよう努力している。具体的には、日中職員の人数が多い時間帯午後1時から3時ごろは鍵をかけずに見守りで対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員が使用する事務室には、災害時の緊急連絡網が掲示されている。年に2回防災訓練が実施されており、1回は近隣消防署からの指導を受け、もう1回は夜間を想定した訓練がなされている。また、併設の医療機関・施設との連携が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、前の食事と重複しないよう献立表を作成し、料理している。個人記録に食事摂取量・水分量・排泄・バイタルチェックなどが細かく記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・居間・風呂場は広々としており、各ユニットに中庭があり、うさぎやねこ・草花があり情緒ある温かい雰囲気である。居間には入居者の大きな作品や行事の写真が飾られ、居心地良く過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には整理ダンスやテレビが持ち込まれ、孫の写真や入居者の若かりし頃の写真、ぬりえなどが飾られており、入居者1人ひとりがプライベートの空間として居心地よく過ごせるよう配慮されている。		